

背景・目的

市内におけるサヤインゲンの基幹品種‘ピテナ’は、高温期における収量及び品質の低下が課題です。そこで本試験では、耐暑性及び収量性に優れ、当地のハウス栽培に適した品種を検討しました。
※ 供試品種の耐暑性を検証するため、遮光遮熱資材を極力使用せずに栽培しました。

結果

供試品種の特徴（標準品種との比較）は？

ピテナ	標準品種（つるなし・丸さや）
キセラネオ※	莢が細く、色が薄い
アポロ※	莢が太く、硬い（折れやすい）
恋みどり※	莢が細く、色が濃い

※ つるなし・丸さや品種のうち莢長 14cm 以上のもの（販売元情報）を選定

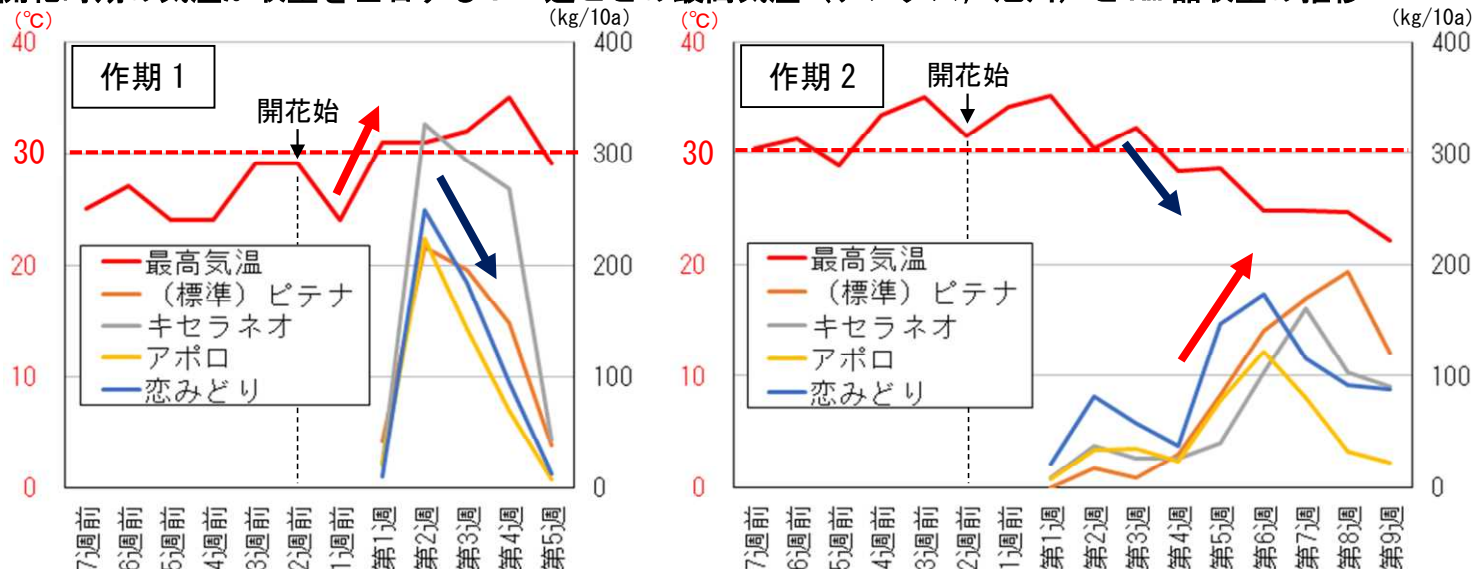
規格内品の収量（kg/10a）は？

	作期 1（5/9 播種，6/27～7/31 収穫）				作期 2（6/24 播種，8/12～10/11 収穫）			
	AM 品	BM 品	BL 品	計	AM 品	BM 品	BL 品	計
（標準）ピテナ	638	291	14	942	761	131	47	939
キセラネオ	<u>950</u>	382	95	<u>1,427</u>	592	111	37	740
アポロ	462	420	61	943	431	250	57	738
恋みどり	550	311	53	914	810	259	143	1,212

※ AM 品：莢長 14cm 以上 16cm 未満で曲がり 1cm 未満，BM 品：AM 品と同じ莢長で曲がり 1cm 超 2cm 未満，BL 品：莢長 16cm 以上 18cm 未満で曲がり 2cm 未満（莢長 14cm 未満のものは調査対象外。また、莢長 14cm 以上 18cm 未満のものうち、不稔、過熟、病虫害等の規格外品も集計から除外している。）

作期 1（5 週間収穫）は‘キセラネオ’が多収，作期 2（9 週間収穫）は作期 1 よりも低収傾向

開花時期の気温が収量を左右する？～週ごとの最高気温（アメダス，旭川）と AM 品収量の推移～



開花時期に外気温が 30℃を超えると収量が減少

開花時期に外気温が 30℃を下回ると収量が増加

結果の活かし方

作期 1 の有望品種は‘キセラネオ’です。作期 2 では全供試品種が低収でした。開花時期に外気温が 30℃を超える作型では、ハウス内の高温対策（遮光遮熱資材の使用等）が必要と考えられます。